

報告事項

令和3年度事業報告

I 公益目的事業

(1) 対馬丸記念館の管理運営事業

対馬丸記念館の管理運営に資するよう事業の円滑な遂行に必要な協議を行うために内閣府、県及び厚生労働省(オブザーバー参加)の関係部署並びに対馬丸記念会を構成員とした「対馬丸平和祈念事業協議会」の幹事会(令和3年9月23日、内閣府沖縄振興局:茂木参事官補佐出席)、平和協議会(同11月26日、沖縄振興局:茂木参事官出席)を開催した。いかにして来館者を増やして自主財源を確保、もって館の自主運営を実現できるのか、について有意義な意見交換が行われた。

ア 常設展事業

公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、2度と悲劇を繰り返さない、繰り返させない「学びの場」「未来へ向けて平和の種をまく施設」として引き続き平和の発信に努める必要があり、その実現に向けて記念館の環境整備に努めた。

環境整備の一環として、来館者の便宜を図るためデジタルサイネージ(電子看板)の設置を進めている。これは、対馬丸事件の概要、展示内容など来館者が自ら操作し液晶画面で表示するもので、英語、韓国語、中国語にも対応する。1階と2階にそれぞれ設置する。これにより来館者が大まかな知識を得たうえで実際に展示物で確認するという流れとなり、来館促進にも大きく寄与すると期待する。

また、館が保有する膨大な数のDVDやテープを全てデジタル化し、目録を作成。今後、有効活用したい。

1階にあるタッチパネル式の証言ブースに今回、新しく2つのコンテンツを追加した。①声の絵本「僕は対馬丸に乗った」②「記憶の扉～対馬丸の悲劇60年目の真実～」の2本。従来の生存者らの証言コンテンツに加え、さらに充実した内容となる。

何より子どもを対象とした戦争博物館としては日本唯一の施設であり、その特色、存在意義を広く周知せしめ、子どもたちにとって平和な時代が永続するよう、努めてきた。

イ 特別展事業

(ア) 「沖縄原風景」

対馬丸の犠牲となった子どもたちが生活していた時代を知ってもらう。対馬丸に乗った

子どもたちは那覇市だけでなく沖縄市や山原など沖縄全土で暮らしていた。そんな各地域の風景を展示し、多くの人たちに戦前の子どもたちが過ごした時代の風景を知ってもらいたい。貧しい生活のなかでも緑豊かな自然のなかで育まれた素朴な心と家族の絆を大切にしていた沖縄の生活の原点に立ち返ることで、現代のストレス社会などの問題に改めて見つめなおすきっかけにもなるだろう。戦前を知っている人が減っていくなかで、戦前の風景を後世に伝えるという意味でも今回の特別展は重要な意味を持つと考える。

開催期間：令和3年8月18日（水）～9月22日（月）

鑑賞者：403人（県内217人、県外184人、国外2人）

（イ） 「第69回全琉図画・作文・書道コンクール那覇秀作展」

沖縄タイムス社主催の全琉図画・作文・書道コンクールにおいて、最優秀賞、優秀賞に入選した那覇市内小中学校の児童・生徒の作品を展示。展示会を通して地域や学校、子どもたちなど多くの人々と記念館をつなげ、子どもたちの生き生きとした表現豊かな作品から、改めて平和の大切さを感じ取ってもらう機会とした。

開催期間：令和3年12月21日（火）～令和4年1月23日（日） 36日間

鑑賞者：484人（県内263人、県外221人、国外0人）

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸事件の歴史に関する資料、証拠の収集に努め、学童疎開に関する戦前、戦中、戦後にわたる世の中の動向や情勢を調査、研究し、常設展並びに特別展の展示資料の充実を図った。また、調査・研究の成果を記念会が発行する刊行物などの基礎資料として活用した。

エ 来館促進事業

対馬丸事件の史実と教訓を広く世の人々に伝えて訴える、という記念会の目的を達成するため、記念館の存在を周知徹底させ、もって少しでも多くの来館者増を図るのは、記念館の最大にして喫緊の課題である。そのため、県内の小・中学校（那覇54校、中北部230校）にワークブック、パンフレットなどの資料を送り、学校行事として記念館を訪れてもらうべく提案した。

慰霊碑などを通じて交流の深い奄美大島。令和3年11月、高良会長はじめ比嘉理事、学芸員ら5人で現地を訪問、新しく作成した紙芝居を宇検村に贈呈するとともに大和村、龍郷町、奄美市などを回り、絆を確認するとともに修学旅行などでの記念館来訪を呼び掛けた。

(2) 対馬丸犠牲者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民との交流促進

ア 対馬丸犠牲者の追悼と慰霊祭の実施

令和3年度は対馬丸記念館の創設17周年、撃沈から77年を迎えた。ただ、1年を通して蔓延したコロナ禍のため、今年も従来のような慰霊祭は不可能となった。セレモニーには職員を中心に一般参加者、来賓なしで簡素に行った。

イ 語り部事業

県内の小・中学校・高校などからの依頼に応じ、生存者、遺族などの語り部によって館内あるいは県内外で講話を実施しているが、令和3年もコロナ禍のせいで、その多くがキャンセルとなり、その回数は大幅に減少した。県内外からの修学旅行もキャンセルが相次いだ。

ウ 相談事業

遺族、親族などの現況を把握するためそれぞれの家庭へ電話し、課題などを把握した。コロナ禍により直接の訪問がかなわず、電話による調査を強いられた。現在の家族構成、後継者などについて聞き取り、また仏壇の保持者、慰霊祭への参加状況、現在の健康状態などを確認した。実績は115人。

エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族、親族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者などを講師として招聘し、「ちゃーがんじゅー講座」を開催した。

(ア) テーマ 「島野菜の恵み」

講師 長崎 信子さん
期日 令和3年11月21日(土)
参加者 50人

(イ) テーマ 「沖縄の訓言」

講師 比嘉 正詔
期日 令和3年3月13日(土)

参加者 75 人

オ 広報活動

広報誌「対馬丸通信」を年 2 回発行し、遺族や生存者及び協力会員、那覇市内の全小中学校（54 校）、県議会議員、那覇市議会議員などに配布し、関係者聞き取り調査の結果や、慰霊祭など、記念会の活動や記念館の運営状況などを報告した。

(3) 子どもたちに対馬丸の悲惨な歴史を伝え、平和を発信する事業

ア 子どもたちの平和学習推進事業

(ア) 「平和学習推進連携委員会」の開催

那覇市教育委員会指導主事、那覇市内小中学校の平和教育担当の教諭（小中から各 1 人）、平和関連施設職員、対「馬丸記念会理事長の 5 委員からなる「平和学習推進連携委員会」を 2 回開催し、平和教育研修会や平和学習作品展などの実施について協議・決定した。

(イ) 「那覇市内全小中学校平和教育担当者研修会」の開催

平成 25 年度より那覇市教育委員会と共催で開催している、那覇市立小中学校 54 校の初任者を対象とした研修会を 5 月に開催した。例年通りであれば、7 月にも初任者を対象とした研修会も開催していたが、コロナ禍の影響でオンラインでの開催となった。

5 月の研修会では沖縄県教育庁文化財課資料編纂班指導主事の大城邦夫氏による講話や館見学、さらに旭ヶ丘公園内にある慰霊碑・顕彰碑も見学、説明を行った。館職員による説明を通して、館も含めた公園全体が子どもたちの学びの場となるように訴えた。

(ウ) 平和学習補助教材の制作

当館でも 6 月の平和月間を中心に、生存者や遺族が、学校や当館などで語り部活動を実施しているが、高齢化に伴い語り部が年々減少してきているという課題がある。

語り部に代わる学習補助教材として、ワークブックと証言動画を合わせたようなデジタル教材を制作し、「対馬丸事件」について、コンテンツを基に各学校で自主的に学習ができるように進めている。

(エ) 対馬丸事件に関する情報収集

那覇市が中心となっていた情報収集や関係機関との連携を、北部・中部地域まで広げて行っている。令和3～4年も引き続き、対馬丸事件で多くの犠牲者を出した沖縄市、また、越来国民学校についての情報収集を行い、越来小学校の児童生徒そして先生方に向けて事件の継承を図りつつ、記念館とのつながりを強化していくよう努めている。

今年度は美東小学校の6学年児童に向けて講話を行った。情報・資料収集、前学芸員が作成した資料の読み込み、また、沖縄市内の関係機関（沖縄市教育委員会、沖縄市平和・男女共同課、泡瀬復興期成会）への挨拶と事業の説明を行った。

イ 子どもたちによる平和活動発信事業

子どもたちが日常的・主体的に平和発信事業が行えるようにすることを目的とする事業として、「平和学習作品展」の実施や「つしま丸児童合唱団」の活動を推進。「平和学習作品展」は、子どもたちが平和学習の取り組みでまとめた作品（平和メッセージや平和新聞、感想文など）を「平和のひろば」（1階）にて展示した。

「つしま丸児童合唱団」（団員数20名）は毎週土曜日、記念館にて英語遊びと合唱の活動を実施。6月には「沖縄戦没者追悼式」に参列し、多くの人々へ平和の歌声を届けた。

II 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」

自動販売機3台の販売手数料収入(販売額の20%)があり、また、書籍「対馬丸 沈む」、小説「対馬丸」(大城立裕著)、公式ガイドブック、DVD「もうひとつの沖縄戦」、「対馬丸へー今を生きる私たちから」などの販売収入もあった。記念館会議室又は企画展示室の賃貸も、わずかだが収入があった。

III その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」

従来は小桜の塔近辺に毎年、さくらを植栽していたが、めぼしい所は植え終えたので令和3年度からしばらくは木の養生に努めたい。とりあえず塔周辺の2本、記念館正面の2本のシロアリ対策、追肥など措置した。

IV 法人会計「管理事業」

対馬丸記念館の管理運営を実施するとともに、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理業務等を遂行した。